

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会（生活給から仕事給） 戦後の高度成長・バブル・バブル崩壊の流れは、1997年をピークにこの25年給与は下がり続けている。かつて高度成長時の日本的経営（年功序列・終身雇用）は世界で絶賛された。一方欧米では、働き過ぎが問題とされ、欧米式職務給化が求められた。

日本型は、人生の中で若い時はお金が掛からないが、歳を重ねると結婚・子供の養育・住宅などお金が掛かる。その為に若い時の支払い分を後半に回すという仕組み（年功序列）。これを実現する為には同じ会社に在籍しなければ成り立たない（終身雇用）。だからこれはセットである。つまり、日本型経営は、労働の対価としての給与は、ボーナス・退職金を含め生活を支えるための「生活給」である。

欧米式の「職務給」は「仕事給」である。しかし同じ職務では昇給を得られない。ですから職務のスキルアップ制度（仕事の難度により）や成果主義を導入しないと、昇給のチャンスが失われる。しかし、人間には能力差があるので、これを実現する為には、社会保障（教育の無償化・医療の無償化など）により、歳を重ねた時に掛かる諸費用をバックアップする制度が必要となり、その財源は税金となる。

では人は何故働くのか。給与が「労働の対価」であることには間違いがないが、日本型では「生活をするため」であり、欧米型では「仕事をするため」である。日本型のスキルは勤続による「勤続昇給」、欧米型はスキル制度による「スキル昇給」といえよう。日本では、社会保障がなされないままに欧米型に移行した事、派遣法（小泉政権時）の改正が、企業の低賃金の非正規社員の増大を招いたことに尽きる。

ちなみに正規社員の生涯収入は約2億7,000万円、非正規社員の平均は9,000万円といわれる。この格差は、昇給・ボーナス・退職金が無に等しいことが最大の原因である。これらの要因が、未婚化・離婚・孤立化など経済的理由を根源とする状況を生み出していることは間違いない。

欧米型の給与制度になりつつある現状では、社会保障の充実と非正規社員の定数化（例：従業員100人に対して10人まで）をしなければ、企業と生活者のバランスはとれまい。原点に返り「人は何故働くのか：生活を支えるため」「仕事は何故するか：自己実現のため」という構図でいいのではないか。経済優先の「豊かな生活」より「幸せな生活」を主体として社会を考える必要がある。

同窓会入会式

毎年卒業式を前に、年度の卒業生が同窓会の入会をする為の入会式が行われている。本年は3月11日（金）に体育館で行われた。本年度の入会者（卒業生）は147名であり、彼らはこれから学校を卒業し、それぞれの道へと羽ばたいて行く。近年卒業生は、校区内住民の増加に伴い増加傾向にある。

入会式は学校長の挨拶に続き、同窓会長の挨拶となり、入会する卒業生を激励した。

（入会式の風景）



「同窓会だより」掲載記事募集

- ①クラスOB会・部活OB会などの写真とお便り
- ②私の会社紹介：氏名・何回生・写真・お便り
- ③私のお店紹介：氏名・何回生・写真・お便り
- ④同窓会への意見や要望

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402
TEL/FAX：(053) 489-6391
ironman29@hotmail.co.jp

八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。
皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行します。